



どんぐり



パークセンターだより 第101号 2010年2月・3月号

松戸市の鳥

自然解説員
今村裕之

シラサギ、フクロウ、ツバメの3種類が2002年、市の鳥に選ばれました。ツバメは以前、「どんぐり」に書きましたので、今回はシラサギとフクロウのことについてお話ししましょう。

21世紀の森と広場の千駄堀池には、サギの仲間は、今までに、サンカノゴイ、ヨシゴイ、ササゴイ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ムラサキサギと10種類のサギが見られました。この中で「シラサギ」と呼ばれるのは、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギの4種類です。

アマサギは夏鳥で、繁殖期には頭から胸前は、アマ色をしています。冬羽の成鳥と、今年生まれの幼鳥は「シラサギ」です。利根川沿いの牛の放牧場などで、牛と一緒にいたことがあります。牛が動いて飛び出したバッタを食べていました。



アマサギの成鳥



アマサギの幼鳥

ダイサギは、昨年は1年を通して、千駄堀池にいました。繁殖羽が長くのび、目先などは綺麗な緑色になっていたのですが、繁殖地へ行かず夏を過ごしました。ダイサギは水辺近くにおいて、魚とかアメリカザリガニを食べています。抜き足、差し足と、ゆっくり獲物に近づき、矢のような早さで獲物を捕まえます。トンボを捕る時もあります。

コサギは、松戸近辺でも繁殖するのですが、最近めっきり少なくなっています。千駄堀池では、秋から春にかけての方が見やすいでしょう。一年中、足と嘴は黒いのですが、足指は黄色です。コサギは少し餌の捕り方が違います。水の中に入り、片足で立ち、もう片方の足で水底をたたくように足を震わします。その時波紋ができます。泥の中に隠れていた、どじょうや、水底に沈んだ落ち葉の下などに隠れているアメリカザリガニが逃げ出したところを食べます。



コサギ

チュウサギは、アマサギと同じ夏鳥です。繁殖期は全身まっ白です。嘴と足は黒く、繁殖期が過ぎると、嘴は黄色になります。

アマサギとチュウサギは、千駄堀池では、あまり見ることができません。食べる獲物が違うのです。主食は昆虫などです。特に利根川沿いの田んぼに行くと良く見られるのですが、秋の稲刈りの時、刈取機が田んぼに入り、稲刈りを始めると、刈取機の後ろを付いて歩きます。稲の中にいたバッタ類が飛び出すのを待っているのです。稲刈りが終わると、イナゴも少なくなり南への渡りが始まります。東南アジア方面へ行くのです。

千駄堀池に一年中いる、ダイサギと年に1～2度しか来ないチュウサギの見分け方が、とても難しいのです。2羽が並べば大きさでわかるのですが、1羽でいた時など、どっちかなと迷う時があります。ダイサギとチュウサギの写真を見てください。チュウサギは目の下に口角がありますが、ダイサギでは口角は目の下よりももっと後ろにあります。こんど望遠鏡で、じっくり見てください。



チュウサギの口角は目の下に



ダイサギの口角は目の下より後ろ

自然観察舎に詰^つめられていると、松戸市の鳥のフクロウはどこに行ったら見られま^たすかと尋ねられます。この公園にもいますが、夜行性なので昼間はどこにいるかわかりません、と答えています。

フクロウは他の鳥と違い目が前面に2つあり、目が大きく、暗闇^{くらやみ}でも良く見える目をしています。それと左右の耳がすこしずれてついていて、音を立体的に捉えて落ち葉の上を歩くネズミなどを、羽音もたてずに捕らえています。

この公園が開園したころには、フクロウのヒナも見られました。ヒナが遊歩道^{ゆうぽどう}にいたこともあり



フクロウの幼鳥

みなさんをお願いします。フクロウのヒナはぬいぐるみのようなかわいい鳥です。抱いて頬^ほずりしたいところですが、近くで親鳥が必ず見^たています。子供^こ(ヒナ)に、危害^{きがい}を加える者には、容赦^{ようじや}なく攻撃^{こうげき}してきます。羽音も立てずに飛^けんで来て、大きな爪^{つめ}で引っかかれると、思わぬ大怪我^{おおいがわい}をすることがあります。

見つけた方は、パークセンターへお知らせをお願いします。巣から落ちたフクロウのヒナは羽をばたつかせながら木を登り、親元へ帰ります。

～ 自然観察舎・湿地の観察会のご案内～

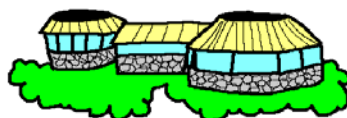
実施時間	実施日
10:00～10:30	土曜日 日曜日 祝日
11:00～11:30	
13:30～14:00	
14:30～15:00	

【定員】先着25名(当日受付)

【受付】自然観察舎窓口

(開始時間までにお申込下さい)

047-340-4140



ケヤキ

ニレ科

自然解説員
藤田 泰

21世紀の森と広場にはケヤキがたくさん見られます。高さが50メートルにもなる落葉高木で、日本には天然記念物などに指定されている樹齢何百年という大きなケヤキが各地で見られます。

落葉時期のケヤキは、枝が扇のようにバランスよく広がり、堂々とした形をしています。根が深く幹や枝も強いので強い風にもびくともしません。校庭や公園、道路の並木などとして植えられ美しい風景を見せてくれています。

松戸市では、「新・日本街路樹百景」に指定されている常盤平のケヤキ並木があります。この並木は「人々に親しまれる街路樹を守り育てよう」というキャンペーンで、平成6（1994）年に読売新聞社の企画で国土交通省、環境省、林野庁などの後援で、全国6,200か所あまり推薦された中から百景に選ばれたのです。このケヤキ並木は昭和35



(1960)年に1キロメートルにわたり植えられたもので、今は大きく成長して見事な樹形となり市民の皆さんに美しい風景と安らぎを与えてくれています。

濃みどりの けやき若葉に 風立ちて

光明るし 雨はれんとす 村松栄一

ケヤキは、どちらかといえば山地を好んで自生していますが、成長がよいため大きな材がとれ、そのうえ、材が堅くて木目が美しいので、建築材、家具材、器具材、彫刻材などとして使われています。身近なものとしては、お餅をつく臼と杵、楽器である太鼓の胴もケヤキで作られているのです。

ケヤキの葉は楕円形（卵形）で先が尖り、縁にあらいぎざぎざ（鋸歯）があります。春に出るやわらかい若葉といっしょに花が咲きます。花には花弁がなく、雄花は新しく伸びた枝の元の方につき、雌花は新しい枝の先の方につき、花

が終わったあとに小さな実がなり秋に熟します。秋が深まると、枯れ葉のついた小枝に実をつけたまま風に飛ばされて遠くまで運ばれ子孫を広げようとしているのです。

次に、ケヤキなど多くの植物（森林）は、地球温暖化の防止や自然環境の保全に役立つフィトンチッドを放出しているという話を、どんぐり86・91・94・97号で紹介しましたので、今回は、植物が放出するフィトンチッドで植物同志が情報交換をしているという話をし



みましょう。

山口大学の畑中顕和先生はたなか あきかずの研究により、カシの葉にマイマイガの幼虫（害虫）が大量に発生すると、フィトンチッドの香りは不快な臭いがしとなって幼虫を餓死させます。さらに、その臭いのシグナルで500メートルも離れた仲間のカシの木に危険を伝え、マイマイガに対する備えうながを促すという情報伝達をすることが証明されたのです。この研究成

果が新聞紙上に発表されたのは平成5（1993）年のことでした。

また、かつて東京大学植物学教授の本田正次先生うかがから伺った話ですが、アメリカでの研究によると、キャベツを2個並べて1個を切ると、切られたキャベツから出る臭いが切られないキャベツに伝わり、その切られないキャベツからも臭いを出すというのです。おそらく、切られたキャベツは「痛いよ、とって助けを求め」、切られないキャベツは「切らないで、と助け求めている」シグナルではないかと考えられるということです。このように、植物は香りのシグナルで、私たちに考えられないような情報交換をしていることがわかってきました。

次の機会には植物から発散する香りが病気などに対する免疫力を高めてくれるという森林セラピーの話と、昨年ことうぶの12月にデンマークのコペンハーゲンかいさいで開催されたCOP15（国連気候変動枠組み条約第15回締約国会議）のお話を紹介したいと思います。

参考資料・常盤平けやき通り「新・日本街路樹百景」認定について

松戸市役所みどりと花の課

・有用樹木図説（林木編）林 弥栄

誠文堂新光社

・読売新聞

読売新聞社

・（社）日本植物友の会「花のサロン」にて聴講

冬に目につく「ヤドリギ」

みどりの相談員
の ぐ ち の り つ く
野 口 宣 二

先日、自宅近くの神社の境内の櫨けいだいのケヤキげやきの大木の枝に数株のヤドリギが着生かぶしているのに気づいた。葉の生い茂っている成長期には全く気づかなかったが、落葉ちやくせいしたこの時期なので、目立ったのであろう。めずらしく思い眺ながめているうちに、以前、野鳥の会の会員の友人から一枚の珍しい野鳥の写真をいただいたことを思い出した。「キレンジャク」という渡り鳥の写真である。その写真には木の枝に止まったキレンジャクが細長い糞ふんをしている姿が見られた。話を聞くとこの野鳥は好んでヤドリギの実を食べるそうでヤドリギの実には粘りがあるからだと聞いた。その長い糞なかほどの中程には種子しゆしのふくらみを見ることができるとのことであった。

ヤドリギはケヤキやエノキなどの落葉広葉樹らくようこうようじゆの枝きせいに寄生する常緑じょうりよくの低木ていぼくで、枝は二股に分かれながら枝先にあつい革質の葉を二枚ずつ対生する。ちょうど竹とんぼのようである。葉には柄えがなく長さ3～8mm、中には5～10mmぐらいの濃緑のうりよくいろ色で枝分かれした枝は全体的に球状で大きいものは1mぐらいになる。宿主が落葉広葉樹なので冬に良く目につき離れて見ると緑の鳥の巣のようである。雌雄異株しゆうのヤドリギは、早春、黄色味をおびた緑色の花を枝の間につけ、冬に熟して半透明の果実となる。実の中は粘質物につつまれた平たい種子が一粒ずつはいつており、実をついばんだ野鳥たちによって運ばれる。

野鳥に食べられ消化管を通り粘りのある糞と一緒に混じった種子が枝上に落ちて宿主であるケヤキやエノキの樹皮じゆひの割れ目や傷口などで発芽し吸着根はつが きゅうちやくこんを組織中にのばして生育する。

わが国ではあまり注目されないが、キリスト教国では「神聖な木」としてクリスマスにはなくてはならないものとされている地方もあるそうである。





パークセンター2月・3月の催し物



講座名	日時	定員	講師	費用	受付
バードウォッチング (雨天は観察舎で実施)	平成 22 年 2 月 21 日 (日) 10:00 ~ 11:30	25 名	自然解説員 今村裕之氏	無料	2/1~
園芸教室 「春まき草花の育て方」	平成 22 年 2 月 21 日 (日) 13:30 ~ 15:00	45 名	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	2/1~
冬芽の観察会 (雨天時は屋内で講義)	平成 22 年 2 月 27 日 (土) 10:00 ~ 11:30	25 名	自然解説員 藤田泰氏	無料	2/1~
園芸教室 「つるバラのツリー仕立て」	平成 22 年 3 月 7 日 (日) 13:30 ~ 15:00	24 名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	2,000 円	2/15~
バードウォッチング (雨天は観察舎で実施)	平成 22 年 3 月 14 日 (日) 10:00 ~ 11:30	25 名	自然解説員 直井 宏氏	無料	3/1~
園芸教室 「夏野菜の作り方」	平成 22 年 3 月 27 日 (土) 13:30 ~ 15:00	45 名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	3/1~

電話または直接、パークセンターまでお申込下さい。

予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。



みどりの相談室



パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738
ハナミツバチ

来園者の皆さまにお願い

- ・ 動植物の採取、持ち込みはしないでください。
- ・ ペットの入園はご遠慮いただいております。
- ・ 鳥などへのエサやりはしないで下さい。
- ・ 魚釣りはできません。
- ・ 自転車、キックボードの乗り入れは禁止されています。
- ・ ゴミの持ち帰りをお願いしています。

安全・快適に公園を利用していただくため、ご協力をお願いします。

夢のコラボ実現！



ドンちゃん・グリちゃん&チーバくんの、顔出しパネルです。記念撮影にご利用ください。(パークセンターにあります)



2010千葉国体
マスコットキャラクター
「チーバくん」

発行日：2010年2月1日
発行：21世紀の森と広場パークセンター
開館：9：00～16：00
(3月1日からは9：00～16：30)
月曜休館(祝日開館/翌日休館)
〒270-2252 松戸市千駄堀269
TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>



21世紀の森と広場シンボルキャラクター
ドンちゃん・グリちゃん